

人と関わり合う総合的な学習の時間をめざして —探究的な学習を通して、児童の主体的な学びを促す—

1. 設定理由

家庭・地域と連携した教育活動の必要性が叫ばれて久しい。地域には、専門家や地域のことに詳しい方など、様々な方がいる。そのような人との出会いは、児童の好奇心をくすぐり、児童の主体的な学びを引き出していくと考える。そこで、人との豊かな関わりを通した「総合的な学習の時間」を切り口に、多様な体験的な学習を設定し、探究的な学習を充実させようと考え、本主題を設定した。

2. 研究仮説

人との豊かな関わりを通した総合的な学習の時間を設定すれば、児童の探究的な学習の充実につながり、主体的な学びを促すことができるだろう。

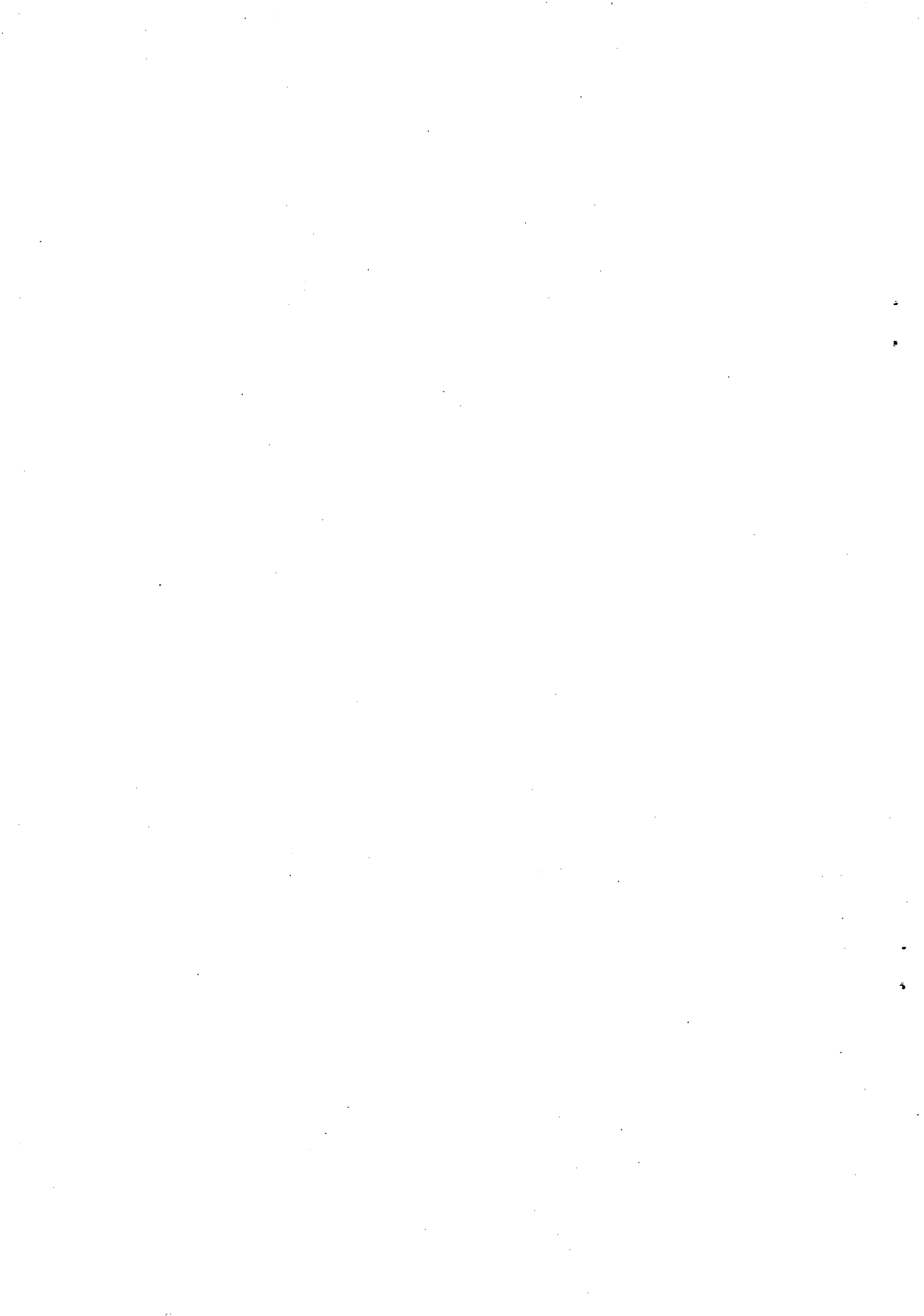
3. 研究内容

- (1) 探究的な学習の流れを意識した単元計画の作成
- (2) 地域の方との豊かな関わりを設定
- (3) 活動後の振り返りの設定

4. 結論

- ・今回、探究的な学習の流れを意識した単元計画を作成した。地域の方と関わっていくことは、児童にとって大きな刺激となり、新たな疑問や「やってみよう」「知りたい」という意欲が生まれるきっかけとなった。特に、地域の祭りに実際に参加し、本物の「人」、「モノ」、「空気」に触れたことで、祭りに対する思いを深めた児童が多くいた。地域に飛び出し、関わっていくことは、児童の探究的な学習につながったと言える。
- ・本単元のまとめで、2年生や地域に向けて、3年生オリジナルの集会を開いた。その集会を開くことによって、課題を調べるために、地域の方へ話を聞きに行ったり、上手に発表できるように練習したりするなど、児童が主体的に活動を行うことができていた。

市川市支部
市川市立行徳小学校
掛水裕斗



人と関わり合う総合的な学習の時間をめざして ～探究的な学習を通して、児童の主体的な学びを促す～

1. 主題設定の理由

家庭・地域と連携した教育活動の必要性が叫ばれて久しい。学校は「閉鎖的な場所だ」という指摘もしばしば耳にする。地域には、ある道の専門家や地域のことに詳しい方など、様々な方々がいる。そのような人との出会いは、児童の好奇心をくすぐり、主体性を引き出していくと考える。

そこで、人との豊かな関わりを通じた「総合的な学習の時間」を切り口に、多様な体験的な学習を設定したいと考えた。探究的な学習については、学習指導要領に、以下のように明記されている。



- ①日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見つけ、(課題の設定)
- ②そこにある具体的な問題について情報を収集し、(情報の収集)
- ③その情報を整理・分析したり、知識や技能を結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決にとりくみ、(整理・分析)
- ④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる解決を始める。(まとめ・表現)

これら4つの過程を発展的に繰り返していくことが「探究的な学習」とされている。

「人と関わり合う総合的な学習の時間」をめざし実践していくことは、探究的な学習の充実につながるのではないかと考える。そこから、児童の主体的な学びを、より一層促すことができるのではないかと考える。以上のことから、本研究のテーマを、「人と関わり合う総合的な学習の時間をめざして ～探究的な学習を通して、児童の主体的な学びを促す～」とした。

2. 研究仮説

人との豊かな関わりを通じた総合的な学習の時間を設定すれば、児童の探究的な学習の充実につながり、主体的な学びを促すことができるだろう。

3. 研究の内容・方法

(1) 探究的な学習の流れを意識した単元計画の作成

3年生にとって、総合的な学習の時間は、初めて学ぶ領域である。児童には、「総合って楽しいな」ということを、まず実感してもらいたい。そして、主体的に学習にとりこんでほしいと思っている。そのため、児童にとって大変身近である「自分たちの住んでいる地域」を中心とした単元を構想した。

本校のある行徳地区は、寺社が多く残る、歴史の深い町である。昔からこの地域に住んでいる方も多く、保護者が本校出身の方々も少なくない。また、本地区には、地域を盛り上げる昔からの祭りがいくつかある。中でも、行徳五ヶ町祭りは、地域の方々为一体となつてとりくんでいるものであり、地域でとても大切にされている行事である。

本校には、「行徳っ子祭り」と「おみこし集会」がある。特に「行徳っ子祭り」の中で実施される「おみこし集会」は、地域の方々のご指導の下、行徳独特の担ぎ方で、全校の児童が学年ごとの神輿を担いでいく盛大な集会である。地域の方と児童がお囃子を演奏し、行事を盛り上げている。行徳地区は、昔からの伝統が連綿と受け継がれ、町の人々のつながりが深い地域なのである。しかし、昨今、神輿の担ぎ手の不足が問題となっており、地域の子ども神輿が出せない状況もある。

以上の実態を踏まえ、本単元では、「地域の伝統を大切にしようとする児童」をめざす姿とした。めざす姿を実現するため、地域の伝統である「祭り」について調べることを軸に、学習を進めることとした。単元を構成していく上では、探究的な学習の流れ（①課題の設定⇒②情報の収集⇒③整理・分析⇒④まとめ・表現）を意識した計画を作った。また、本単元は2部構成とし、年間を通して、「祭り」の学習を行うこととした。

（2）地域の方との豊かな関わりの設定

様々な人との関わり合いを組み込んだ単元構成とした。地域と積極的に関わっていくことで、児童自身の「気付き」が生まれてくると考えた。そして、そこから、児童の「もっと知りたい・調べたい」や「伝えたい」といった「思い」が生まれると考えられる。この「思い」が、児童の今後の生き方（本単元では、地域の伝統を大切にしようとする態度）に影響を与えると考えた。

（3）活動後の振り返りの設定

学習の後には、適宜、振り返りの時間をとるようにした。そこから、児童が活動からどんなことを感じたのか、どんなことに興味をもったのかを調査した。児童の興味・関心を適切に把握することで、その興味・関心に沿った学習活動を展開できるようにした。

※以上3点を踏まえた単元計画は、9ページ図1を参照。

4. 研究の具体的内容

（1）ゲストティーチャーの話を聞く。

単元の導入では、児童が「祭り」に興味を持ち、疑問やもっと知りたいことをもてるようにしなくてはならない。そこで、行徳に幼少の頃から住まれており、また、本校の元校長をゲストティーチャーとして呼びし、話をしていただいた。祭りのこと、祭りのルール、本校でしか神輿を担いでいなかったことなど、たくさんのお話をいただいた。事前に、ゲストティーチャーの先生と話す内容について、打ち合わせ



をし、子どもたちが疑問をもてるように工夫した。

ここでは、児童の疑問から出た「行徳小でしか神輿を担いでいないこと」を元に、「どうして神輿を担ぐのか」、そもそも「日本や世界の祭りがどうして行われているのか」を探っていた。

(2) 地域の伝統を知っている方に話を聞こう！

児童は、祭りがなぜ行われているのかを、本を中心にグループごとに調べた。地域の祭りである「行徳五ヶ町祭り」に興味をもったグループには、保護者や祖父母に話を聞いてくるよう投げかけた。すると、すぐに話を聞いてきて、「これからも神様に地域を守ってもらうために行っている」ということを調べてくる児童もいた。

地域の祭りも含め、祭りの行われている理由を整理していくと、「祭りには人々の願いがある」ことに気付くことができた。この気付きを元に、「どの祭りにも人々の願いが込められている」ということを学級でまとめた。そこで、本校の行事である「行徳っ子祭り」にはどんな願いがあるのだろうか子どもたちに投げかけた。すると、「子どもが元気に育つため」や「神様に守ってもらうため」、「みこしや祭りを知ってもらうため」など、様々な予想が出てきた。予想が正しいかどうか調査するため、どうしたらよいか児童に聞いてみた。すると、「行徳っ子祭りについて知っている人に話を聞きに行こう」というアイデアが出た。本校には、数十年前、本校に勤めていた先生方が何人かいるので、「その先生に聞きに行けば、答えがわかるのではないか」ということになった。また、「ゲストティーチャーに来ていただいた先生にも聞いてみよう」ということになった。

本校の先生方には、3、4名のグループでインタビュー調査を行った。ゲストティーチャーの先生には、電話でインタビューをした。「インタビュー調査や電話調査をしてみたい人？」と児童に募ったところ、多くの児童が「やってみたい！」と立候補していた。ゲストティーチャーの先生に、電話でインタビューをしたときは、多くの児童が受話器の近くで耳を寄せ合い、見守っていた。

(3) 行徳っ子祭りで、祭りに込められた「願い」を多くの方々に伝えよう！

(2)の活動の結果、行徳っ子祭りには「行徳の文化である祭りやみこしの文化を伝えたい」という願いが込められていることがわかった。そこで、児童に、「みんなは、どんな願いを込めて、行徳っ子祭りに参加する？」と尋ねてみた。すると、「祭りやみこしの文化を伝えたい」という願いが出てきた。この願いを元に、どんな活動をしていったらよいか話し合った結果、以下の3つのアイデアが出た。

- ①ポスターを作って来場している方に説明する。
- ②ちらしやパンフレットを作って来場者に配る。
- ③お祭りスタンプラリーをやって、お祭りやみこしについて知ってもらう。

この3つの活動をグループごとに、行徳っ子祭りで行うことになった。

三つの活動を行うに当たり、ポスターやちらし、パンフレット等の準備を行った。準備の中で、子どもたちは意欲的に活動にとりくむことができた。あるグループでは、より良いものを作ろうと、校長先生に進んで見せに行き、アドバイスをもらっていた。その結果、読む人にわかりやすいポスターやパンフレット作ることができた。

また、オリジナル衣装を作って、お祭りに参加しようというグループもいた。お祭り当日、ポスターを説明するグループは、とても緊張しながら活動していた。しかし、当日に向けて練習したのでしっかり説明することができていた。また、ポスターをたくさんの人に見てもらえることができ、大喜びであった。ちらしやパンフレットを配布するグループは、自分たちが配ったものがもらってもらえるか不安を覚えながら活動を進めていた。最初は「パンフレットを作りました！見てください！」とだけしか言っていなかった。そのためか、作ったものをもらってもらえないこともあった。しかし、途中から、「おみこしやお祭りの文化について調べたので、見てください」と言って配布し始めた。最終的には作ったものを全て配ることができていた。全てもらってもらった児童は、満面の笑顔で「全部なくなったよ！」と報告しに来ていた。

スタンプラリーを行ったグループは、たくさんの人に、スタンプラリーに参加してもらおうと、オリジナルの衣装を着て、汗をかきながら、必死に呼び込みを行った。スタンプラリーのお題のある場所が難しく、全てスタンプを押してクリアしたグループは一人しかいなかったが、子どもたちはとても満足したような様子であった。

(4) 地域の祭りに参加しよう！

行徳の伊勢宿地域では、10月9日(日)に3年に一度の祭礼が行われた。この地域では、子ども神輿があるのだが、近年は、子ども神輿の担ぎ手がおらず、子ども神輿は出せなかった。そこで、学校で子どもみこしの担ぎ手の募集をかけたところ、約90名の児童の応募があった。また、同時に本行徳一丁目も子どもみこしの担ぎ手の募集があり、結果的に2つの地域の祭りに参加することになった。当日は、子どもたちにとっては、とても貴重な機会となった。神輿を大人の神輿と同じ担ぎ方で担いだこと、道路の真ん中で堂々と元気に担いだこと、たくさんの大人に声をかけてもらったこと、大人が担ぐとても大きな神輿を近くで見させてもらったこと、神輿を担いだ後友だちと楽しく、いただいたおにぎりやお菓子をおいしく食べたこと。どれも子どもたちにとっては充実した一日



となった。学校にいたるだけでは経験できない体験であった。

(5) 2年生や地域の方に向けて、おみこし集会を開こう！

地域の神輿を担いだことによって生まれた疑問を元に、新たな探究的な活動が始まった。始まるに当たり、「五ヶ町祭り盛り上げ隊を結成して、おみこし集会を開こう！」というゴールを設定した。次年度に地域の大きな行事である「行徳五ヶ町祭り」が開催されること、さらに、地域の祭りについて興味をもっている実態を踏まえ、単元のゴールを以上のように定めた。

児童は、祭りで使われる言葉、服装、行徳五ヶ町祭りに疑問をもっていて、それぞれについて調べる活動を行った。服装について調べているグループについては、衣装について調べた他の学級に調査を行った。祭りで使われる言葉については、昨年度祭りについて学習していた4年生（現5年生）に調査しに行った。行徳五ヶ町祭りを調べたグループは、祭りに詳しい保護者の方に聞き、情報を収集した。この活動は、本学級だけでなく、同学年の他学級も行った。そして、学級ごとにテーマを決め、「おみこし集会」で発表する内容を決め、発表に向けて準備をした。

単元のまとめとして、2年生や地域の方を招待して、3年生オリジナルのおみこし集会を行った。本学級は、「祭りで使われる言葉」について発表し、特に「わっしょい」、「もむ（行徳では、神輿を「担ぐ」ではなく「もむ」と言う）」とはどういう意味なのかについて発表を行った。

5. 研究の考察

図①に示した一連の活動の後、児童は振り返りを行い、感想を書いた。児童の感想を元に、考察を行った。

(1) 地域の方との関わり①「ゲストティーチャーの話を聞く」について

感想には、「ゲストティーチャーの先生の話がおもしろかったです。もっとみこしのことを知りたいです。」「『おみこしはなぜかつぐの？なぜお祭りをやるの？』などわからないことがたくさんあった。」と感想を書いていた。自分の住む地域の文化に興味・関心をもち、自ら課題を発見することができたと言えるだろう。

(2) 地域の方との関わり②「地域の伝統を知っている方に話を聞こう！」について

「校長先生や校内の先生に話を聞いて、疑問の答えがわかりました。とても楽しかったです。」「歴史や文化を知るためには、本で調べたりお家の人に聞いたりしないとわからないということがわかった。」といった感想が出された。このことから、課題解決を図るため、人に話を聞く活動に進んでとりくみ、情報収集を主体的に行っていたことがわかる。

(3) 地域の方との関わり③「行徳っ子祭りで、祭りに込められた「願い」を多くの方々に伝えよう！」について

児童は、行徳っ子祭りを終えて、以下のような感想を書いていた。

- ・意外とポスターを発表するときに緊張した。ポスターをわかりやすく説明するのが難しかった。説明が終わった時、「できた」と思いました。
- ・チラシを配るのは大変だったけど、楽しかったです。最後に「みこしと祭りの文化について調べました。見てください。」と言えたので良かったです。
- ・4年生でも同じような活動をしてみたいです。すごく楽しかったです。
- ・また祭りの勉強をしてもっと詳しくなりたいです。祭りの文化をつなげたいです。
- ・みこしをなぜかついでいるのかわかってくれたら良いと思いました。
- ・来年のみこしも、これからずっと心をこめてやって、いつかみこしや祭りのことをみんなに伝えて、ずっとみこしの文化を伝えていきます。
- ・他の祭りにも参加してみたくくなりました。

それぞれの児童が、祭りでの活動を主体的に行っていることがわかる。「みこしをなぜかついでいるのかわかってくれたら良い」という感想からは、きちんと目的（祭りやみこしの文化を伝える）をもって活動を行っていることがわかる。「祭りの文化をつなげたいです。」や「いつかみこしや祭りのことをみんなに伝えて、ずっとみこしの文化を伝えていきます」、「他の祭りにも参加してみたくくなりました。」という感想からは、単元の目標である「地域の伝統を大切にしようとする児童」の姿に近づいている。一連の活動が、児童の今後の生き方に影響を与えたと言えるだろう。

(4) 地域の方との関わり④「地域の祭りに参加しよう」について

子どもたちは、地域の祭りを終えて、以下のような感想を書いていた。

- ・地域の人たちはみこしを軽々持ち上げていてすごいなと思いました。これからも、五ヶ町祭りやいろいろなみこしをかついでみたいと思いました。
- ・大人のおみこしの「上げる・下げる・投げる」をやってみたいです。
- ・地域の人たちのおみこしを目の前で見たから、迫力があってすごかったです。本物のおみこしをかつげておもしろかったです。3年後も行きたいです。

また、以下のような疑問も持った。

- ・「わっしょい」と言うのは、どういう意味が込められているのか。
- ・どうして「かつぐ」ことを「もむ」というのか。
- ・どうして「五ヶ町祭り」は3年に一度しかないのか。
- ・どうして、おみこしをかつぐときかけ声が必要なのか。
- ・なぜ、お祭りの日や特別な日にお供え物をするのだろうか。

「五ヶ町祭りやいろいろなみこしをかついでみたい」や「本物のおみこしをかつげておもしろかったです。3年後も行きたいです」といった感想から、活動を通して、おみこしを担ぐことの楽しさを実感したことがわかる。普段、おみこしとゆかりのない児童にとっては、新鮮な経験になったであろう。また、実際のおみこしを担いだことや大人のみこしを担いでいる様子を間近で見たことによって、新たな疑問をもつ児童も多くいた。

地域に飛び出し、地域の人と関わり合ったことで、児童は、主体的に地域とつながろうとしている。人と関わり合って活動することは、まさに、児童の主体的な学びを引き出していると言えるだろう。

(5) 地域の方との関わり⑤「2年生や地域の方に向けておみこし集会を開こう！」について

子どもたちは、おみこし集会を終えた後、以下のような感想をもった。

- ・2年生に文化が伝わるといいです。
- ・2年生を誘って、五ヶ町祭りに行ったりちらしを配ったりしたいです。
- ・来年、2年生に五ヶ町祭りに行ってほしいと思います。
- ・いっぱい祭りに参加して、五ヶ町祭りを盛り上げたいと思います。
- ・私も五ヶ町祭りに行きたいです。

「2年生に文化が伝わるといいです」、「2年生に五ヶ町祭りに行ってほしいと思います」といった感想から、児童は、祭りに対する思いを深め、祭りの文化をつなげていこうという意識を高めることができた。主体的に活動にとりくむことができたと言えるだろう。また、おみこし集会に至るまでの活動の様子を見ても、自分たちから知っている人に聞きに行き、課題を解決しようとしているので、児童の探究的な学習を促していると言えるだろう。



今回のおみこし集会を実施して、印象に残っているのは、地域の方の喜んでいる顔である。地域の方が「このような集会を開いてもらって嬉しい」という一言から、子どもと地域が少しつながることができたのではないかと思っている。

6. 考察のまとめ

児童は、人との豊かな関わりを通して、探究的な学びを行うことができた。地域をよく知る方から話を聞いたことで、児童は、大きな刺激を受け、自ら課題を持った。そして、課題解決のために、児童は、課題についてよく知っている方に進んで話を聞きに行き、課題解決を行うことができた。さらには、調べてわかったことについて、多くの人たちに発表することができた。地域とのつながりを持ったことは、児童にとって、大きな財産になったと言えるだろう。

これらの探究な学習から、子どもたちは主体的に活動に取り組むことができたと言える。おみこし集会の感想からわかるように、児童は、本単元でのめざす「地域の伝統を大切にしようとする児童」に近づいている。祭りの文化を伝えようとする姿勢、祭りに参加する気持ちは、まさに、本単元でめざす姿である。

7. 研究のまとめ

今回は、「人と関わり合う」ことを軸に、探究的な学習を展開していった。祭りに詳しい地域の方と関わっていくことは、児童にとって大きな刺激となった。特に、地域のお祭りに参加する経験は、普通に生活しているだけでは経験できない。「伝統の継承」が問題視されている昨今、実際に伝統的な行事に参加することが、伝統の継承への一番の近道であると感じた。行事に参加する

ことでしか感じられないものがある。本やインターネットでは感じることはできない、「空気・人・モノ」がそこにはある。それが、子どもたちの主体的な学びを呼び起したと考える。

本年は、10月に行徳五ヶ町祭りが行われる。そこでも子ども神輿が出される予定となっている。おみこし集会の発表を聞いた2年生（現3年生）だけでなく、今回の学習を行った3年生（現4年生）の児童にも、多く参加し、地域を盛り上げてほしいと考えている。そして、今回の活動が、今回限りで終わるのではなく、本校の伝統として受け継がれていってほしいと思っている。それが、地域の伝統の継承につながり、地域の活性化につながっていくだろう。

図 1

～本単元でめざす児童の姿～
地域の伝統を大切にしようとする児童

